

へんなか通信

中越震災復興プランニングエイド活動ニュース - 創刊号 平成 18 年 1 月

発行・編集：中越震災復興プランニングエイド

ごあいさつ - 中越震災復興プランニングエイド代表 大熊喜昌



例年になく大雪で現在なお七日町の仮設住宅で苦闘されている皆さん、既にご自宅に戻られている皆さん。私達は昨年 10 月から、法末の集落管理センターをお借りして週末に交代で詰め、法末の集落復興再生について一緒に活動できればという思いでいるグループです。既に、「やまびこ」のリニューアルオープン、斉の神、初釜の催しをお手伝いし、同席させていただき、多くの方々とお会いして、お話を伺いながら私達の頭のなかに臚げながら素晴らしい法末集落の姿がつくられつつあります。今後も、集落センターを拠点として模索しながら、活動を続けていきたいと思ひます。よろしくお祈ひします。

総代から（大橋弥市氏）

皆さんに対して最初はどの程度やってくれるのかなみみたいな感覚で集落の者は考えていたと思う。10 月以来、毎週ここまで続けてこられているので、本気なんだなと考え始めている。集落では空き家が出てくるような状態になりつつある、空き家を活用できないか。そういうつなぎを皆さんに期待している。若い人々は子育ての関係で近隣に出て行くが、自分で暮らして行く分には良い場所だ。様々な活用方法があるのではないかと思う。皆さんに見てもらって、良い面があると思ったら、都市部あるいは雪の降らない地方の人に紹介していただければ、興味を持って入ってきてくれるのではないかと思っている。

1 . 中越復興プランニングエイドとは 土肥英生

- ・ 新潟県中越地震に心を痛めているまちづくりの専門家が集まり、プランナーとして農山村復興の一助になればと立ち上げたのが『中越震災復興プランニングエイド』です。
- ・ メンバーは、NPO 法人日本都市計画家協会の会員を中心に、女性建築家の団体であるウィファジャポンのメンバーなど、十数名の専門家によって構成されています。
- ・ 各種団体の支援を受け、主に以下のような活動を行っています。

法末集落（旧小国町）の活動拠点（集落管理センター）を中心とした法末集落再生支援活動

山古志の 6 集落を対象とした集落再生計画づくりのアドバイス活動内容

2 . 活動記録

中越震災復興プランニングエイドは、05年10月22日から集落管理センターを借りて週末にメンバーが法末集落に滞在し、地域資源の調査、集落の方との交流、行事の支援などを行ってきました。開始以来1週もかかさずメンバーが滞在しています。

【10月】

22～23日	センター開所会（22日18:00～22:00、40名参加）
29～30日	集落の方へのヒアリング（集落の歴史について）

【11月】

4～5日	集落の方へのヒアリング（山菜料理について）
12～13日	集落の方へのヒアリング（交流事業について）、集落探訪
19～20日	次年度活動内容及びリニューアルオープン等打合せ
24～27日	宇都宮大学三橋教授、市民会議との打合せ、「やまびこ」大掃除への参加

【12月】

3～4日	リニューアルオープン打ち合わせ
10～11日	普門山観音寺訪問、民家訪問
16～18日	法末自然の家リニューアルオープン（17日14:00～18:00、100名参加）
24～25日	冬季交流プログラムの実験（2家族参加）

【06年1月】

31～1日	二年参り、新年会取材
7～8日	七日町仮設住宅での雪下ろし、ヒアリング
14～15日	初釜（15日13:00～14:30、60名参加）
21～22日	2月の交流イベントの実施に関する検討

3 . 今後の活動予定

【2月の予定】

2月4～5日、2月11～12日、18～19日は、土曜日午後2時ごろから、日曜日4時ごろまで、集落管理センターに滞在しています。温かい飲み物が準備してあります。気軽にお訪ねください。

主なイベント

安心道歩きマップづくり 2月4日19:00～（場所：集落管理センター）

冬季の交流をするにあたって何に気をつけるべきか、安心道歩きマップづくりを目的に話し合いを行います。簡単な食事と飲み物を準備してあります。是非、ご参加ください。

冬季交流イベント 2月25～26日（場所：法末自然の家やまびこ）

冬季交流の実験として、雪ホテルやトレッキングなどを体験する交流イベントを実施します。

！18年度も継続して活動を続けていきます。ご提案、ご意見お待ちしております。

4. メンバー紹介 (プランニングエイドのメンバーを紹介します。)

<p>井原満明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(株)地域計画研究所 ・1948年生まれ ・都市と農村で地域づくりに関わり、岩手県東和町ではタウンマネージャーもしています。 	<p>大熊喜昌</p> <ul style="list-style-type: none"> ・69才 ・生国東京。戦国時代の越後中頸城箕冠城城主大熊備前守朝秀の末裔。隠居老人です。よろしくおつきあい下さい。 	<p>須永和久</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(株)計画技術研究所 ・1960年生まれ ・本職はまちづくりのコンサルタントですが、コミュニティ・ビジネスの支援団体の活動も行っています。 	<p>土肥英生</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(財)都市防災研究所 ・1959年生まれ ・NPO グリーンネットスでのまちづくり提案 JSURP では美しい街づくり活動も行っています。
<p>松川淳子</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(株)生活構造研究所 ・建築・地域計画を専攻しています。 ・防災や復興計画を、生活の場から考えていきたいと思っています。 ・国際女性建築家会議災害復興見守りチームの一員でもあります。 	<p>宮本伸子</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ものづくり大学 ・生まれたのは「もはや戦後ではない」と言われた年 ・建築設計と地方のまちづくりの後、現在は大学生の就職相談などをしています。 ・国際女性建築家会議災害復興見守りチームの一員です。 	<p>宮田裕介</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域環境プランニング 有限会社代表 ・1955年生まれ ・農村整備および弱小町村の活性化に取り組んでいます。 ・最近は「食文化」の視点から、農村文化の発信をテーマにイベントを実施しています。 	<p>出ッ所幸子 (でっしょ さちこ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1961年生まれ ・ふだんは都市づくりの仕事ですが、個人で都市と農村の交流にかかわっています。
<p>森田美紀</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(株)アーククルー ・1967年神奈川県生まれ ・ランドスケープ・建築設計 建築と庭をつなげる仕事をしています。 ・法末の美しさを伝えていきたいと思います。 ・国際女性建築家会議・災害復興見守りチームの一員です。 	<p>安武敦子</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東京理科大学工学部建築学科助手 ・国際女性建築家会議・災害復興見守りチームの一員です。 ・斉の神では火を付けさせて頂き、ありがとうございました。 	<p>寺本 晰子 (てらもと せきこ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境及び建築に関わる 企画立案・実施が仕事です。同時にこれが喜びです。 ・戦後の年月と同じ年になります。 ・国際女性建築家会議災害復興見守りチームの一員です。 	<p>濱田甚三郎</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(株)首都圏総合計画研究所代表 / 仮設市街地研究会代表 ・1945年生れ ・阪神・淡路大震災以来、仮設市街地(仮設集落)づくりにこだわり、地域の復興・事前復興に取り組んでいます。
<p>江田隆三</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(株)地域計画連合 ・1954年生まれ ・北海道出身 ・スノーシューをはいて集落を散策しました。 	<p>大和田清隆</p> <ul style="list-style-type: none"> ・浜松まちづくりセンター ・1957年生まれ ・現在山村、都市部を問わず、地域活性化など様々な角度から市民活動を支援しています。 	<p>守茂昭</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(財)都市防災研究所 ・1955年生まれ ・全国の防災まちづくりに係わっています。 	<p>野口由紀子</p> <ul style="list-style-type: none"> ・武蔵野から編集室 ・1948年生まれ ・法末は雪のこちゃばんば(天国)、色々な人に通って欲しいと思いました。

5 . 地元の方の声-大橋昭司さんに聞く

日本は工業国だから、その流れに入るべきと考え鉄工を始めた、しかし、技術や資本がなければ続けられない。一時炭焼きをやったこともあったが、結局、鉄工に戻った。集落が元気になるためには、何とか誰でもできるような産業と思って隣りに呼びかけて 4 人で鉄工をやったこともある。

16 年前に、交流施設をつくってはどうかという声が町からかかった。こうして、交流施設となる『やまびこ』ができた。2 年前に組合長になってから、本格的にやまびこを中心とした交流事業に関わることになった。山菜、田んぼを活用することで、集落の人が誰でも参加できる産業をおこしていきたいと考えている。

山菜は、生で出荷もあれば、乾燥、塩蔵、冷蔵しても良いので、それを製品として売っても良いので、加工して付加価値を高めて売ることもできる。また、山野草をやまびこに陳列して、買ってもらうといったことも考えられる。

地震の結果、地下水の流れが変わって米を作れなくなった田んぼがあるので、そこを、山菜づくりに活用したい。まわりの人も良くなって、自分も良くなる。そういう考えでやって生きていきたい。こうした活動は自分たちで当然やっていくものだが、こうしたら都会に売れるといった知恵をプランニングエイドには期待したい。

何でもコラム - おいしい乾パンの食べ方

- ・ 皆さんの家で救援物資としてもらった乾パンの処理に困っていませんか？ 捨てるわけにもいかないし、食べにくいし。そこで乾パンのおいしい食べ方をお教えします。乾パンをレアチーズケーキの台にするのです。結構おいしく食べられます。お試しください。(須永)

材料

- ・ 乾パン 150 g フィラデルフィアクリームチーズ(清水フードで売っています)生クリーム、バター、ゼラチン、レモン汁、砂糖

調理法

(1) チーズケーキの土台をつくる

- ・ 乾パンをすり鉢で細かく砕き、砕いたらボールにとり、溶かしたバターを入れて混ぜる。
- ・ ケーキ作り用の丸い皿(ガラス皿でも可)に砕いた乾パンを押し固めて、厚さ 8 mm 程度の土台を作る

(2) レアチーズを作る

- ・ チーズをボールに取り、泡だて器で砂糖を入れながらこねる。
- ・ 生クリームを少しずつ入れ、やわらかくなるまでこねる。
- ・ 最後にゼラチンをお湯で戻したものとレモン汁を加えてこねる。
- ・ 出来上がったチーズを土台の上にヘラなどで流して、冷蔵庫に入れ、固まるまで待つ。 - 完成

編集担当者より(創刊号編集担当 須永和久)

・ へんなか通信は集落の皆様と P A を結ぶものとして、月 1 回の発行を予定しています。今後ともよろしく願います。